

エリア会議
全国運営者会議

活動の中で生じる課題を共有し、今後の方策について全国の関係者で協議するため、2018年9月に全国7か所でエリア会議を、12月8日～9日にかけて全国運営者会議を開催しました。

※競輪の補助を受けて実施しました

チャイルドライン
支援議員連盟 総会

2018年12月7日にチャイルドライン支援議員連盟総会が開催されました。議連所属議員と関係省庁の担当者参加のもと、支援センターからはチャイルドラインの活動状況と活動の意義について説明しました。日本におけるチャイルドライン活動が20年を迎え、蓄積してきた子どものデータをとても貴重なものとして政策に有効に活用していくよう、馳浩幹事長より関係省庁への呼びかけがされました。

ご支援・ご協力
ありがとうございます

●2018年9月～11月のご寄付総額
8,910,009円

子ども専用フリーダイヤルをはじめ、チャイルドライン支援センターの活動は、多くの方のご支援で成り立っています。フリーダイヤル費用はもちろん、電話やチャットで届いた子どもの声をまとめ、社会に届けるために、年間2,000万円のご寄付が必要です。

子どもたちの生きやすい社会を目指し活動するチャイルドラインへの応援これからもよろしくお願いいたします。

※当団体は東京都の認定を受けています。ご寄付いただくと所得税や法人税の控除をうけることができます。



発行日：2019年1月30日

発行：特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター（認定NPO）

NEW! 引越しました!

〒162-0808 東京都新宿区天神町14 神楽坂藤井ビル5階 TEL: 03-5946-8500 FAX: 03-5946-8501

URL: <https://www.childline.or.jp/>

E-mail: info@childline.or.jp

チャリティコンサート
～子どもたちの未来のために～

2018年10月26日、紀尾井ホールにてティツィアーナ・ドゥカーティ後援会主催のチャリティコンサートが開催されました。「タイスの瞑想曲」(マスネ)「ラ・カンパネラ」(リスト)「浜根の歌」(林古溪/成田為三)などが素晴らしい歌声と音色で奏でられ幸せなひとときでした。177,126円のご寄付(募金含む)をいただきました。ありがとうございました。

出演：ソプラノ＝ティツィアーナ・ドゥカーティ、ヴァイオリン＝川島成道、ピアノ＝山口研生

フリーダイヤル&オンラインチャット
実績

●フリーダイヤル(2018年9月～11月)

2018年9月～11月	当期	前年同期比
発信数	131,486件	-510件
着信数	46,346件	-6,045件
着信率	35.2%	-4.4%
平均通話	5分59秒	48秒
総通話時間	4,619時間	100時間

※NTTコミュニケーションズ トラヒック調査ツールより

●オンラインチャット相談試行(2018年8月～11月)

2018年8月3日 ～11月30日	実施日数 (36日間)	平均
訪問人数	10,906人	295人/日
チャット利用人数	4,943人	134人/日
対応件数	832件	22件/日
対応時間	36,462分	44分/件

※チャットシステム「Chamo」のレポート解析結果、およびチャイルドラインデータベースより

編集後記

◇新しい年の幕が開けました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。2019年がおだやかな年となるよう切に願っております。
(T. T & S. M)

特定非営利活動法人(認定NPO)

チャイルドライン
支援センター

ニュースレター

vol. 139

18歳までの子どもがかけのんわ



特集

チャイルドライン
全国フォーラム

in

九州

開催報告

- チャイルドライン 全国フォーラムin九州 実行委員長
- チャイルドライン 「もしもしキモチ」(福岡県) 代表理事

山田真理子



初めてエリアが力を合わせて担当した全国フォーラムが、福岡の地で2018年11月10・11日開催されました。西南学院大学のチャペルという、荘厳な雰囲気の中の大会1日目は、知的障害者によるプロの太鼓集団「瑞宝太鼓」のオープニングの感動に始まり、木原雅子先生の基調講演は「心の声を丁寧に聴く」ことが導き出す出会いと子どもたちの変化が心に響きました。

シンポジウムでは、かつてチャイルドラインに電話をかけたことのある若者2人に登壇していただきました。お一人はLGBT当事者Jさん、もうお一人は家族と合わずに高校時代から一人暮らしをしていたKさんでした。

Jさんは、中学に行くころから自分の性に違和感があって、あえて女子高を選びました。「男女がいて、違和感が刺激されるより、一つの価値観しかない方が楽」ということばは当事者ならではの実感がありました。初めて人に打ち明けたときに、その大人から返ってきた言葉は「勘違いかもしれない」。Jさんは、インターネットで調べるものの当時の情報では、「新宿2丁目しか生きる場所はない」と思い込み、生きている意味を失ったそうです。最後のよりどころと思って掛けたチャイルドラインで、電話に出た受け手が「つらかったね。あなたはおかしい

わけではない」と丁寧な対応があったことで、「やっと生きていいんだと思えた」と語ってくれました。「チャイルドラインに生きることに背中を押してもらった」「親に打ち明けるときも、チャイルドラインに相談してからにした」というJさんのことばに、チャイルドラインの意義を強く感じさせていただきました。

一方、Kさんは、度々チャイルドラインに掛ける中で力をもらったけれど、時には高校生の一人暮らしを信じてもらえなくて悲しかったことを語ってくれました。常識を振りかざさずに子どもに寄り添うこと大事さを感じました。

2日目の分科会は、それぞれ九州の各チャイルドラインと支援センターが担当して企画しました。それぞれのチャイルドラインが、講師の選定や打ち合わせを行い、実行委員会で共有しながら進めて行きました。メーリングリストでの情報共有だけではなく歩調が合わず、当日補い合うことも多々ありましたが、それも含めて九州らしい分科会になったと思います。

全国フォーラムの報告書を発行します。詳細な報告についてはこちらをご覧ください。けたらと思います。





CHILDLINE 20TH ANNIVERSARY
チャイルドライン20周年

全国フォーラム in 九州

子どもの声がとどく社会をめざして ～地域の連携を非常時の支援に活かす～



開催概要

Day 1

2018年11月
10日(土)
【会場】西南学院大学チャペル

◆基調講演

「あなたの声をきかせて
～WYSH教育の視点から～」
木原雅子

◆シンポジウム

「辛さを抱えた
子ども時代を振りかえる」
コーディネーター
山田真理子

Day 2

11日(日)
【会場】福岡市市民福祉プラザ
(ふくふくプラザ)

◆分科会1～12

Day 3

12日(月)
◆オブショナルツアー
○SOS子どもの村福岡
(福岡市西区今津)
○学校法人きのくに
子どもの村学園
(北九州市小倉南区平尾台)

2018年度日本郵便年賀寄付金助成

基調講演

あなたの声をきかせて WYSH教育の視点から



- 京都大学大学院 准教授 (医学博士)
- 一般財団法人日本子ども財団 理事長
- 国連合同エイズ計画共同センター センター長

木原雅子

まず、調査データから得た子どもたちの現状は、バーチャルな人間関係がとて増える一方で、リアルな人間関係が減っていて、しかもいびつな三角形になっており、ものすごく不安定で、自尊感情が低く、自主性の低い子どもたちが多くなっています。大きく反抗することは少なく、待っている子どもが多く、スマホ依存症や自傷行為が増えてくるように思います。

そのような子どもたちに自尊心や主体性をあげる教育が「WYSH(ウィッシュ)教育」です。WYSHは、Well-being of Youth in Social Happiness(若者の真の幸福)の略です。

WYSH教育は、子どもたちの「自分力」をアップすることを目的としています。中間目標としては、まずいろいろな危険を回避すること。そのためには、まずコミュニケーション力の育成。そして目標に向かってやり抜く力を形成します。目標に対して進み続けると、絶対に失敗することはありません。そこから立ち直る力、つまりレジリエンスの育成。それらを全部ひっくるめて、自分で考えて、自分で決めて、自分で行動する力……これがWYSH教育がめざす「自分力」の育成です。

WYSH教育では、毎回その子たちのためにオリジ

ナルの教材を作ります。日常の挨拶で「おはよう」とか「げんき?」と声をかけるとき、そのあとにその子の名前を付けるだけでも変わる。挨拶を、特別ラッピングした言葉にすることもその一つです。

お話したときには必ず相槌を打って、反応を返します。相手をどうこうする前に、相手を個人として尊敬すること。子どもたちの話とはにかく丁寧に、必ずそれを話している子どもの発している雰囲気メモしながら聞きます。話を聞くときに聞き手は全身のアンテナ立てて聞いておかないと、その人の大事なものが受け取れないと思っています。

私の場合、こうしなさいと命令したり、やめなさいと止めたりすることは、命にかかわることと犯罪にかかわること以外はしません。それから、頑張ったときに褒めすぎると、頑張っていないときに子どもは話をしにくくなるように思います。本当にその子が相談したいのは、頑張れなかった、失敗しちゃった、ダメだったときですから。

子どもたちは「カウンセラーのところとかに行くのはすごく困っている子で、自分の悩みなんですごく小さなことだからもったいないから相談できない」と思っていて、心の中にいっぱい貯め込んでいる。私は「何でも相談室」とか「しゃべり場」という名前

でやっています。最初は、友達と来ていいよと言っています。大人一人に対し、子どもが複数だと、子どもは話しやすいようです。そして自分の呼ばれたい名前の名札を付けてもらいます。



私の研究室の留学生やセクシュアルマイノリティーの方々と一緒に作ったのが「Out of Box」というサイト(<http://www.wysh.jp/qy>)です。Boxというのは既成概念の箱という意味です。

思春期の子どもたちはみな綱渡りしているようなものですが、日常から転落してしまったときにセフティーネットが荒くてその網からも落ちてしまい、やり直しが利かなくなる現状はひどいと思います。いろいろな方がいろいろなセフティーネットを張りめぐらすことによって、綱から落ちてしまってもどこかに引っかかってもう一度日常に戻れる。そのような状況ができればなと思っています。

今の時代は問題が潜在化し、大変な状況になっていると思います。でも、一人一人の子どもは無限の可能性を持っています。それを私たち大人の存在が応援していけたらいいなと思います。



各分科会のようす



第1分科会：子どもの声を様々なツールで聴く



第2分科会：子どもとメディア・アウトリーチプログラム体験



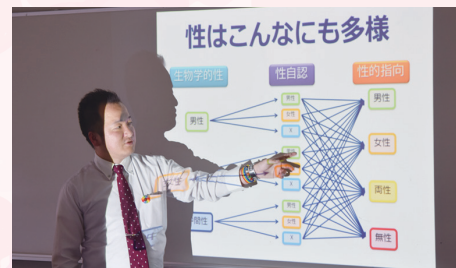
第3分科会：男子の性の課題



第7分科会：SDGsとチャイルドライン



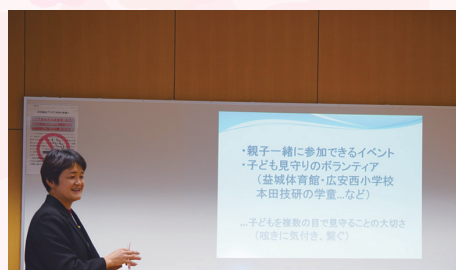
第8分科会：メディアの加害・被害



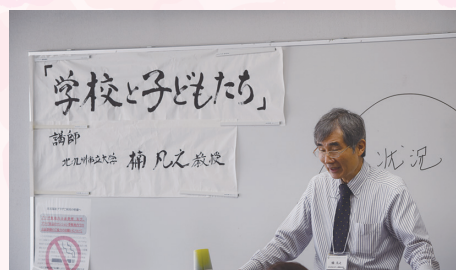
第9分科会：性の多様性 LGBT(性的少数者)について学ぶ
～ひとり一人に「今」できることを考える



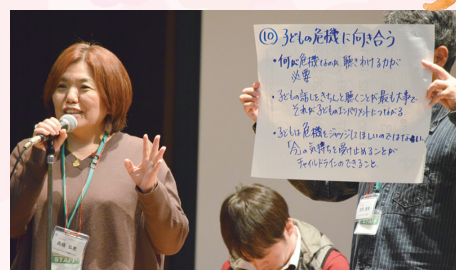
第4分科会：子どもの権利に学ぶ



第5分科会：非常時の子ども支援



第6分科会：学校と子どもたち



第10分科会：子どもの危機に向き合う



第11分科会：経済優先社会と子どもたち



第12分科会：子ども参画に向けて